(Affiliations) 茨城工業高等専門学校
国際創造工学科　一般教養部

研究タイトル：
上代文学研究（万葉集の歌解釈）

Name	桐生　貴明／KIRYU　Takaaki	E-mail	kiryu@ge.ibaraki-ct.ac.jp
Status	准教授		
Affiliations 所属学会・協会	上代文学会、和歌文学会、美夫君志会		

Keywords	上代文学，和歌文学，万葉集，高橋虫麻呂，記紀風土記，伝説歌
Technical Support Skills 技術相談・提供可能技術	・ ・ ・
Message to the Industry 産業界へのメッセージ	

Research Contents

上代文学、特に萬葉集の歌を読み、その解釈や、その歌が歌われた場、状況、詠者（作り手）の立場のあり方などを歌の中から汲み上げることを目的とした研究を行っている。それは、書かれたもの（あるいは現存する諸文献）をどのように読み、理解するか（解釈）という思考の繰り返しである。

近年、技術の進歩により、あらゆるものの処理速度は飛躍的に向上したが、残された文献の一語一語をどのように解釈するのか、という点での人間の処理速度（思考する速度）はそれほど変わることはないと思われる。大切なのは文献に記された一語一語を丁寧に読み、語の関係性を読み解くことである。本来、言語操作という点から考えれば、どの言語も論理を確立できるはずで、論理性を持たない言語はないと言ってよいだろう。とは言うものの、書き手、受け手が置かれている様々な状況や環境の差が大きくなるほど、その解釈にずれが生じるということは言語の特性上起こり得る。その点を広く洗い出しながら、作品そのものを見ていくのが文学研究であり、作品解釈である。近年、「コミュニケーションのあり方」などを研究するコミュニケーション学などとよばれる学問分野も誕生したが、結局は「発信者がどのように情報を発信し、受け手がその情報をどう解釈するか」を突き詰めるものであり、文学研究の世界では遥か昔からなされている。畢竟、「作品をどのように解釈するか」ということが私自身の研究の一番のテーマである。

今後も、引き続き、万葉集の歌（特に高橋連虫麻呂に関連する歌）を中心として、古典和歌作品を取り上げ、一語ずつ丁寧に読み、解釈していくつもりである。

【ここ数年の研究活動】

桐生　貴明　『万葉集』巻八・一四九七番歌の一考察—「鳴かましや」の解釈について—　和歌文学会 1 月例会（口頭発表） 2020（令和2）年 1 月　於　早稲田大学戸山キャンパス

桐生　貴明 「留め得ぬものへの哀願と諦念—『万葉集』巻九・一七五五、一七五六番歌考—」『古代中世文学論考 』第 38 集、新典社、2019（令和元）年 5 月、pp.34-66

桐生　貴明 「『万葉集』巻九・一七四二、一七四三番歌に関する一試論—「心悲久　独去児尓　屋戸借申尾」の訓みと解釈を中心に—」『古代中世文学論考 』第 36 集、新典社、 2018（平成 30）年 3 月、pp.56-87

桐生　貴明 「小式部内侍の大江山の歌の異同について—「ふみまだもみず」と「まだふみもみず」を中心に—」「茨城工業高等専門学校研究彙報」 53、2018（平成 30）年 3 月、pp. 1-8.

Available Facilities and Equipment